

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172900805), 法人名 (北海道医療株式会社), 事業所名 (グループホームハッピーヴィラしんまち), 所在地 (北海道旭川市6条西1丁目1番2号), 自己評価作成日 (平成30年10月31日), 評価結果市町村受理日 (平成30年12月27日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設17年！幾歳月を重ねる毎にグループホーム(各自の住みよい家)として皆様に感じて頂いているのか？常に意識しながら支援させて頂いております。ただ当てはまったサービス提供をすれば良いというものではなく、1人1人の生活習慣や環境、家柄の習わし等の把握や各個人の出来る事、そして今後の望む生活とは？をご本人様、ご家族様に伺いながら思いの内容に添える様、ご本人様にとって相応しい生活の在り方を考慮しながら対応させて頂いております。地域交流においてはご本人様、ご家族様、地域住民の方々とのふれあえる場になれる様、毎年恒例の仮装盆踊り大会やハロウィンパーティーの開催、春と秋のお茶会を行い、皆様、心から楽しんで頂ける様、又馴染みの関係作りや、互いに助けあい共に何時までも住み慣れた地域で生活を歩んで行ける様、取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172900805-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年11月20日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が母体のグループホームハッピーヴィラしんまちは、旭川市の歴史の古い地区に平成13年に開設された。母体が病院とあって利用者や家族の安心感を得、信頼につながっている。高齢にもかかわらず介護度は1と2であり、身体能力維持のために午前・午後の2回、ラジオ体操、リハビリ体操、創作した365歩のマーチ体操を組み合わせで行って、健康維持に取り組んでいる。現在、町内会活動は行われていないが、事業所で盆踊り大会やハロウィンパーティーを開催して地域の子供たちを喜ばせている。更に地域住民に声を掛け、講演会やお茶会を開催して、認知症の理解にも取り組んでいる。旭川市の指導監査課に訪問し、情報や指導を得て良好な関係を構築している。職員間は仲が良く信頼関係が作られている。その雰囲気は利用者にも伝わり、グループホームは和やかな事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	意義を基とした理念に添うように日頃実践に取り組んでいる	二項目の理念をラウンジや事務室に掲示している他、二月ごとに職員が事業所目標を決め共有して実践に取り組んでいる。現在は感染症に気を付ける取り組みで、手洗い、うがいを徹底し促すことを目標としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やボランティアの方々との交流を交えながら利用者様が地域住民の一員となる様、定期的に交流を図っている	開設から町内会に加入しているが、現在町内会活動は行われておらず、グループホームが地域住民や子供たちの集える場所としてありたいとの思いから、仮想盆踊り大会やハロウィンパーティー、講習会を企画開催し参加を得て交流を図り、地域貢献に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成委員の方や、ご家族様等に日頃の対応の仕方や現状報告を交えながら認知症の方への理解促進をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練や防災計画書等を見ていただき、ご意見を頂きながら取り入れてサービス支援に活かしている	運営推進会議は家族会会長、嘗ての町内会役員、地域住民、知見者、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催し、現状報告、活動報告を行い意見を得て運営に取り入れている。	利用者家族へは開催案内、議事録送付等を行っていない状況となっている。出席の工夫や家族や職員との情報共有の取り組みを期待する。また、定期的な開催の工夫も期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や指導監査課への報告や相談を行いながら連携、協力関係を築いている	市担当課とは事ある毎に管理者が訪問して、困難事例や、身体拘束廃止に向けての相談を行っており、勉強会開催に向けての情報を得ている。また、保護課の訪問は2か月毎にあり協力関係を構築しており、市との協力関係は出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わない取り組みをしてきたが入居者様と現況が伴わず、指導監査課に相談をし、安全を考慮した配慮としての施錠となったが、拘束にならぬよう意識しながら取り組んでいる	身体拘束廃止に向けては、適正化に向けて3か月毎に身体拘束会議と勉強会を開催することとし、意識改革と知識の周知を目的に職員で委員会を立ち上げている。今春系列の事業所での内部研修があり、適切な介護が出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や虐待の研修会へ参加し、得た内容をもとに常に拘束や虐待行為にならぬ様、意識しながら話し合い防止策に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の方に講習会依頼をし、ご家族様と受講し今後の必要時に備えられる様、取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様のご要望を伺い、互いに納得の行く説明を心掛けて行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時、状況説明とご意見を伺いながら運営に活かされる様、取り組んでいる	利用者、家族の意見や要望は日常の会話の中で把握しており、さらに日常の様子は毎月の新聞や報告書でお知らせし、要望が寄せられた時には話し合いながら運営に反映できるよう支援している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、日頃の運営や意見を聞き話し合い、取り入れながら、より良いサービス提供がなされる様にしている	職員の意見や提案は申し送り時や業務中、毎月のスタッフ会議で把握し、反映できるよう取り組んでいる。また別機会に系列の事業所とともに社会福祉協議会、食事宅配業者、ヤクルト等の企業に協力をお願いし、研修を行い、知識の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	待遇等については4月に改訂になり今後の取り組みについても話があった。他、努力ややりがいを持って取り組み、繁栄される様、働きかかっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に系列内の勉強会を受けたり、各人の実践に見合う研修受講を勧め知識や技術を身につけられる様配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列の勉強会や同業の研修会参加の機会があり、知識を得て日頃のサービス提供に活かされるよう取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等について、ご本人様やご家族様に伺いながら安心して頂ける関係作りが出来る様、努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをし、必要性のある支援とご家族様の要望を含めたサービス支援が提供出来る様、努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること等、行って頂きながらともに行い、一緒に生活を味わえる関係作りを心がけている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ状況を伝えながら相談し、ご本人様にとって良い関係性の支援を作って行ける様、取り組んでいる		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に一度の同期会参加や幼少の頃に住んでいた地域に行き、馴染みの関係性が築けるよう努めている	利用者の嘗ての馴染みの理美容室への訪問や、昔からの商店への買い物等は商店側の事情もあり、無くなっているが、毎月同期会に参加している利用者があり、送迎を行って関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方等を把握し、波長の合う関係性から楽しく過ごして頂ける様、配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	培ったご縁を活かしながら連絡をとり、良い関係性が続いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅に居た時にどのような生活をされていたか？伺い、自宅に居た時と近い、そして意向や出来ることへの支援配慮に努めている	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、利用契約時の生活歴や、日常の会話の中で把握して、意向に沿った生活が出来るよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴と暮らし方、生活環境についてご本人様やご家族様に伺いながらその時々に対応しい生活が送れる様、努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過ごし方や思い、心身状態を把握出来る様、様子を見ながら対応している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の趣味や特技を把握し、残存能力が生かされる様、又、ご家族様にもご本人様が以前行っていた習慣を伺いながら介護計画に反映させている	介護計画は基本的に3ヶ月毎に担当者と全職員によるモニタリングを行い、本人や家族の要望を把握して、カンファレンスを経て見直しを行っている。その際、毎回センター方式を改善した様式でアセスメントを取り直し、適切なサービス提供に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に話あいながら結果や工夫を凝らし、皆で共有しながらその時の状況に合わせた介護計画が実践される様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に相応しいサービス支援が提供出来る様、取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域支援からご本人様も地域住民としてその場の生活状況に馴染めるよう地域の取り組みに参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前雇われていた医療機関や要望を把握し、ご本人様の馴染みのある診療が受けられる様、支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診は事業所に対応しているが、概ね系列法人医療機関の往診を受けている。2週間に一度訪問看護師が訪問し、健康管理を行い、適切な医療が受けられる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に相談しながら状況に適した看護、対応が得られる様、指示を受けながら対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本情報から習慣的な事等を伝え、入院時ご本人様にとって相応しい対応がなされる様、対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前もって事業所で行える事を説明し、先を見添えた生活拠点と共に考え、系列の機関と連携を取りながら支援している	入居時に重度化した場合における指針を説明し、利用者家族の意向を確認している。事業所の立地条件として、階段の上り下りがあり、系列法人の医療機関や、系列の他のグループホームと連携し、利用者、家族の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師に急変時の対応の仕方について勉強会開催を依頼し、即座の実践に活かせる様、取り組んでいる		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて災害時の計画書を見て頂き、ご意見を伺いながら計画書に活かし、ご協力が得られる様、取り組んでいる	防災業者が参加しての火災避難訓練を夜間想定で実施している。一週間に一度、電機系統の配線点検を行ったり、管理者が休日前にも、ボイラー室やコンセント等の点検を行い、安全に注意を払っている。	地域住民も参加しての避難訓練の定期的な開催と、ライフライン断絶等他の災害対策整備に取り組む事を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	固くなり過ぎぬ関係にならぬ様、馴染みのある言葉掛けから尊重性を感じて頂ける様、意識しながら話している	利用者の尊厳を尊重し、自己決定を促している。呼び掛けはさん付けを基本とし、親しみが持てるような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いと希望を伺いながら自己決定がしやすいよう、配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、各入居者様を優先的にと思いながら支援しているが、業務優先に成り得る時もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみがご自分で行いやすいよう、配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	義務的にならぬ様、会話を用いながらともに生活をしている者同士と感じて楽しい片付けがなされる様、取り組んでいる	献立は系列法人の管理栄養士がバランスや季節感を考慮して作成している。時には野菜の皮むきを利用者をお願いしたり、おやつと一緒に作り、食事が楽しめる様に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考え適度に栄養補給がなされる様、促し、摂っていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性について説明し、無理なく口腔ケアがなされる様、習慣になる様、促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況について把握し、間隔を考慮しながらのトイレ誘導や紙パンツ使用について支援している	自立している利用者も多く、プライバシーに配慮したさり気ない声掛けを行い支援に努めている。利用者の状況で、夜間のみポータブルトイレを使用する方もおり、利用者に合わせて対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のお茶時にホットミルクや乳製品の物を週に3~4回摂って頂き、又、リハビリ体操等の運動を毎日2回行いながら便秘改善、心身機能維持を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い方同士で入浴が出来る様、又、時間については入浴が早い方と遅い方を配分しながら入浴介助をおこなっている	浴室は広く、一度に3名程が入浴することができる。毎週3日お湯をため、その内2回以上、職員見守りの中、仲の良い利用者同士で楽しみながら入浴している。入浴拒否の強い利用者には声掛けの工夫をして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自、自由に休息し、自己の生活ペースが維持出来る様、又、習慣を活かせる様、支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法や目的等を理解し、担当医や看護師に指示を仰ぎながら服薬支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の出来る事や特技等が生かされる様、さりげなく促し、気分転換と心身機能の維持を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様が行きたい場所への要望が発せられなくても、その日のご本人様のご様子をみながら、お出掛けを促したり、ご家族様に以前のご本人様の馴染みのある場所を伺い了解を得ながら出かけられる様、配慮している	天気が良い時には、利用者の様子を見ながら外気浴や付近の公園へ散歩に出かけている。桜の木も近隣公園にあり、時期になるとお花見をしている。系列法人に緑を楽しむ会があり、共に散歩をしながら交流している。また、秋には高齢者文化展が開催され、利用者が出品しており、見に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己で所持できる金額をご家族様とも話し、所持して頂き、自分でも管理をしている認識が持てる様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やお友達と連絡がとれる様、定期的に連絡を入れ、お話をしてもらい気持ち、穏やかになる様にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や玄関に観葉植物等や掲示物を季節感のある物を取り入れ、明るさと楽しさが演出される様、配慮している	嘗ては証券会社の社員寮として使われており、浴室は広く、トイレは数多く作られている。建物は時間がたっているが、清潔に気を使っている。玄関や居間に観葉植物があり、季節の飾りつけをして、楽しく居心地よく暮らせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休める空間スペースや気の合う人同士が集える場所が提供出来る様、日頃から配置等を考慮しながら居場所作りをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ってきて頂き、自宅に居た時と近い生活が送れる様、ご家族様とも相談をしながら配置している	居室はクローゼット、ベットが用意されている。利用者は今まで使用していた家具や仏壇、テレビ等をもってきており、家族の写真や、描いた絵を飾り、自宅同様に暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れる様、各箇所に名所を掲示し、ご自分で行ける様にしている		